

アースアプレイザル

石綿分析最短で1日

米国方式のラボ開設

不動産の環境リスク調査を手がけるアースアプレイザル(東京都千代田区、銀持一郎代表取締役)は、ビル経営や資産評価などに対応する「米国方式アスベスト分析ラボトリー」を開設した。80年代のアスベストシロツク以降、長い分析の歴史を有する米国方式を採用することで、短期・低価格での分析を行うのが特色。日米で高いレベルにあるアナリスト3人が常駐する同ラボの取り組みや日本国内の環境分析機関との連携強化を通じて、大量の投資案件判断など迅速性が要求される場合に即応する体制を整えた。

分析ラボの開設にあたり、アースアプレイザルは、米国一環境基準が厳しいカリフォルニア州で長年の実績を有するフォレンジック・アナリティカル社(シウイッド・カハネ社長)と業務提携。分析ラボは、同社の東京ブランチに位置づけられている。

分析は「US EPA Method」と呼ばれる手法をメインに、電子顕微鏡なども用いて顧客の要求に応じた分析を実施し、最短1日で結果を出す。

日本国内では昨年アスベスト問題が浮上して以来、分析結果を提出できなくなる分析の需要が急増している。しかし、分析依頼から結果が出るまでに数カ月を要してしまっている。大量の投資判断を迅速に行う外資系投資家の要求にこたえるのは難しいのが実情だ。

同ラボでは、米国1人、日本人2人のアナリストが常駐し、顧客などから持ち込まれるサンプルを1日に1人40、80件分析。すべての情報をバーコードで管理するだけで、1回で数百件オーダーの要求があっても均一に分析結果を提出できる。また、日本では一般的に、サンプルを粉碎して分析を行うのに対し、同ラボ開設に立ち会うために来日したデウィット氏は、「新しいラボの業務を通じて、日本にアスベスト分析の新しい考え方を紹介していき



米国方式をメインに電子顕微鏡なども使用